MINOURA 自転車収納スタンド **バイクタワー 10** 取扱説明書

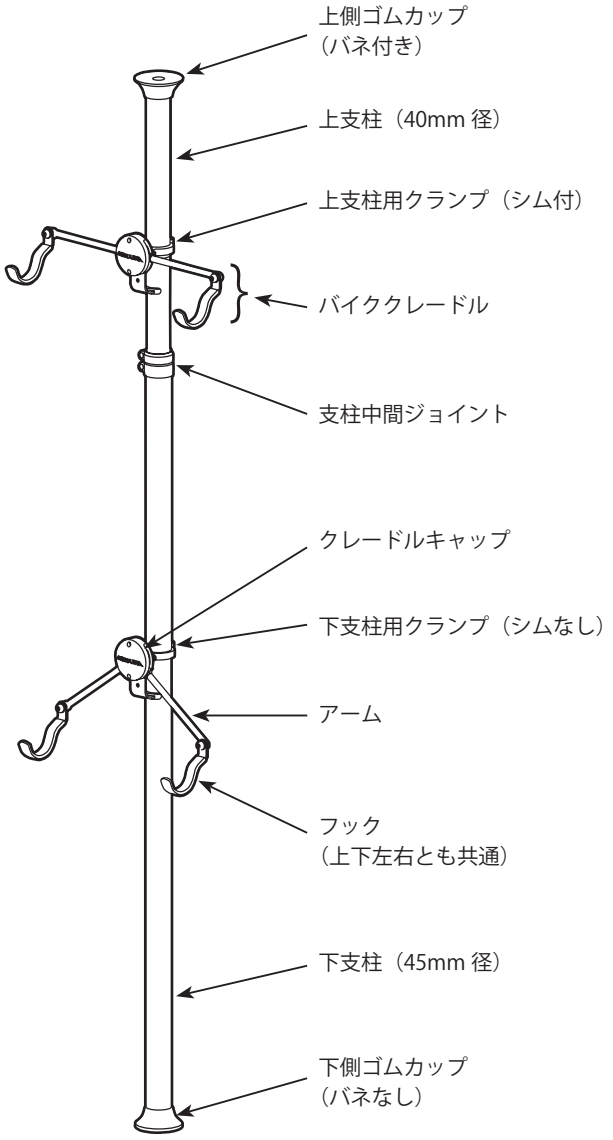
(ver.1.3 2014/3)

このたびは「**バイクタワー 10**」をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

バイクタワー 10 は突っ張りポール式の構造により、床から天井までの高さが 1.7 ～ 3.1 mの場所であれば簡単に設置できる自転車収納スタンドで、標準で自転車２台、オプションの追加クレードルなどを装着することで、最大４台までの自転車と各種パーツ類を１本のポールにまとめて取り付けることができる多用途なシステムスタンドです。

ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりと読みになり、各注意事項に十分注意を払った上で、正しく安全にお使いください。

各部の名称



タッピングビス M3.5x16 または
M3.5x25 のいずれかを使用

地震などによる不意の転倒を防止するため、できる限り添付の樹脂ストラップを使って支柱上側を天井や壁などに止めておくようにしてください。

注意していただきたいこと

●ボルトの締付トルクは 5N.m を守ってください。

●一般の２輪自転車専用です。全長の長いタンデム車や前後で重量バランスが大きく異なるリカンベントなどは搭載時にバランスを崩す恐れがあるため、使用を推奨していません。

●バイクタワー 10 ではバイククレードル１台当たり最大 25kg までの静止荷重には耐えられるよう設計されていますが、角度可変式アームの裏側にある固定ボルトの締め付けが弱いと、重い自転車で使用する際に重さに耐えかねてアームが垂れ下がり、保持が不安定になる恐れがあります。

●バイクタワーの支柱は、上側ゴムカップの中にあるバネの力により天井側に押し付けられることで支えられています。
天井のゴムカップが当たる箇所は、必ず梁で補強された場所にしてください。梁がなく天井板だけの場所だとバネの力で天井板を突き破ってしまう恐れがあると同時に、十分な力で支柱を支えることができず、使用中に外れて転倒する恐れがあります。

●支柱の長さは正しく調整してください。
設置したときにもし上側ゴムカップから赤い樹脂部品が見えている場合は、まだ支柱を必要十分に伸ばしきっていないことを意味します。いったん取り外してから、後述の説明に従って支柱をもう少し伸ばして正しく設置してください。

●上下支柱はひっくり返して使用することはできません。必ず太い方が下側になるようにして使用してください。また支柱を横倒しにした突っ張り棒のようには使用しないでください。

●床と天井は必ず水平で平行でなければなりません。斜めに傾斜している天井や床の場所には安全に保持できません。

●支柱は必ずどの方向から見ても完全に垂直になるように設置してください。傾いたまま設置すると十分に保持されなくなり、使用中に転倒してくる恐れがあり危険です。

●ゴムカップの材質は十分に吟味してありますが、床や天井の材質や表面コートの種類によってはゴムカップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など跡を付けてしまうことが許されない場合はゴムカップとの間に紙を１枚だけ挟んでください。

●バイクフックの材質も十分に吟味してありますが、自転車フレームの表面コートの成分などによっては稀に、長期間載せっぱなしにすることでフックの跡が染み付いてしまうことがあります。心配な方はフックに包帯や古くなったバーテープなどを巻いて直接フレームに触れないようにしてお使いください。

●バイクタワーに搭載された自転車やクレードルにぶつかったり衣服を引っかけたりすると、支柱を軸にして全体が容易に回転してしまいます。もしそうなっても大丈夫なようにバイクタワーの周囲には壊れやすいものなどを置かないでください。

●バイククレードルを装着するためのクランプはあらかじめ上下支柱にそれぞれ１つずつ取り付けられていますが、もし移動などのため取り外して再装着する際は、後述する注意事項に従って正しい向きで取り付けてください。向きを間違えると正しく固定できず、自転車がずり落ちたり外れて落下してくる恐れがあります。

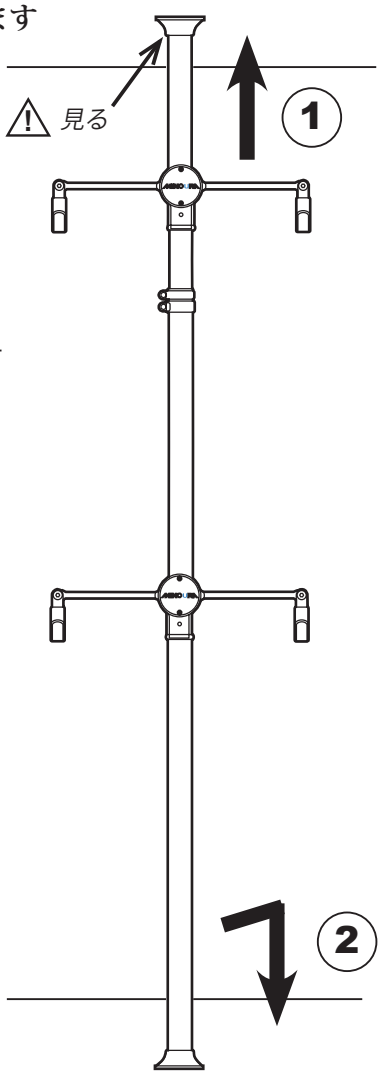
●支柱中間ジョイントをしっかりと締め付けて設置した後に上支柱を手で持って引き下げてみて、上支柱がずり落ちてこないことを確認してください。

ボルトねじ込み時の注意

ネジというものはその構造上、ある角度で斜めにねじ込めてしまいます。ほんの 1 回転ほどで引っかかって止まってしまいますが、これをネジに何らかの異常があって止まったのだと勘違いして工具で無理に回しメスネジ側を破壊してしまうトラブルが跡を絶ちません。
ボルトは初めの 3 回転ほどはできるだけ工具を使わずに慎重にねじ込んでいき、問題なくスムースにねじ込めることを確認してから初めて工具を使っての本締めを行なうようにしてください。初めからいきなり工具で本締めしようとしてはいけません。

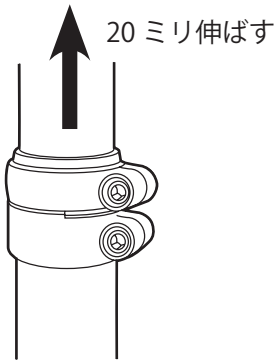
支柱の設置について

仮設置→寸法修正→本設置の順で設置していきます



1 支柱中間ジョイントのボルトは 2 本とも初めは意図的に緩められています。
まず下側のボルトを緩め、中間ジョイントを下支柱に密着するまで確実に押し下げておいてから、しっかりとボルトを締め込んで固定しておきます。

2 次に中間ジョイントの上側のボルトを緩めて上支柱を引き出し、天井に向けて伸ばします。床と天井とに同時に当たるまで伸ばしてから、ボルトを軽く締めて支柱の長さを仮決めします。これがバネを縮めない状態で測った天井〜床の寸法です。



3 いったんバイクタワーを取り外して床に横たえます。

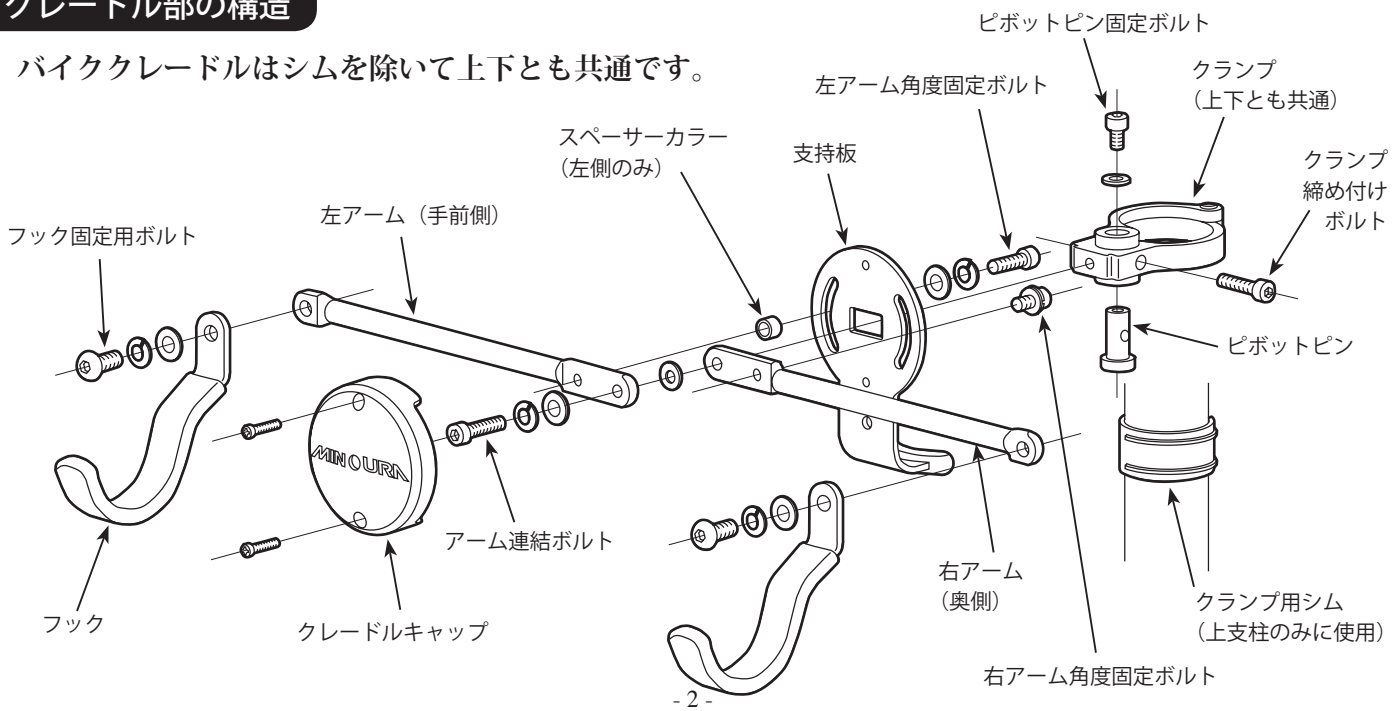
4 仮決めした支柱を***あと 20 ミリ***だけ伸ばします。
中間ジョイントの上側のボルトのみを緩め、上支柱を 20 ミリだけ伸ばし、再びボルトをしっかりと締め付けて固定します。

5 ①まず上側ゴムカップを天井に押し当て、そのまま上に突き上げるようにして支柱上端のバネを縮めます。
②その状態を保ったまま、斜めになっている支柱を垂直に立てていき、静かに床に下ろして支柱を立てます。
③最後に上支柱をつかんで引き下げてみて、しっかりと固定されていることを確認します。

支柱を立てたとき、もし上側ゴムカップから赤い樹脂部品が見えていたら、それは支柱がまだ十分に伸ばし切れていないことを意味しています。いったん支柱を外し、赤い樹脂が見えなくなる程度に支柱を伸ばしてから、もう一度設置してください。

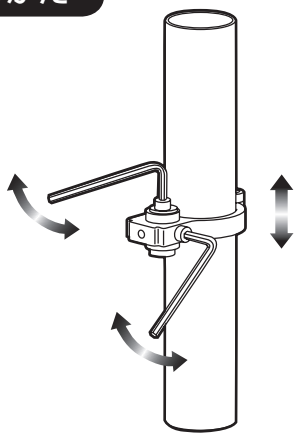
クレードル部の構造

バイククレードルはシムを除いて上下とも共通です。



クレードルの装着のしかた

1



クランプはあらかじめ上下支柱にそれぞれ1つずつ仮止めされています。
支柱を伸ばしたあと好みの位置に移動させます。
クレードルは支柱のどこにでも固定可能です。高さ・角度ともに特に制限はありません。

クランプを移動させるには、クランプ締め付けボルトとピボットピン固定ボルトの両方をM5六角レンチで緩めてから、クランプを静かにスライドさせて行ないます。

⚠ ***側面のクランプ締め付けボルトを緩めただけではクランプは動かない場合があります。***

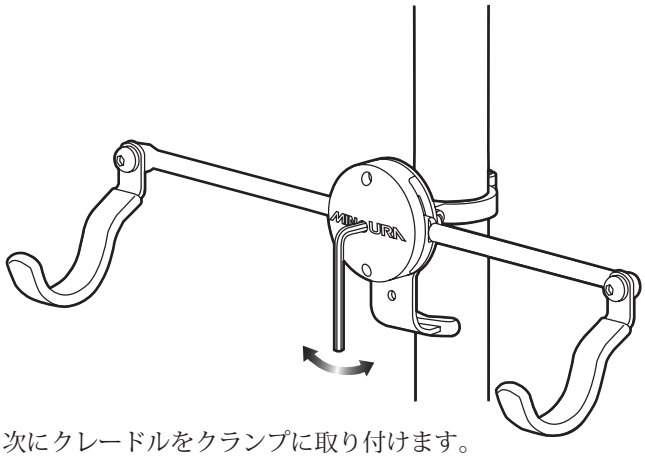
⚠ ***上支柱用クランプには樹脂製シムが必須です。取り外さないでください。***

⚠ ***下支柱のクランプは支柱に直接触れていますので、十分に緩めないままスライドさせると支柱に傷を付けてしまう恐れがあります。***

移動させたあとは、両方のボルトともしっかりと締め付けて固定しておきます。

2

半組みしてあるクレードルにフックを取り付けます。フックはアームの手前面に装着します。



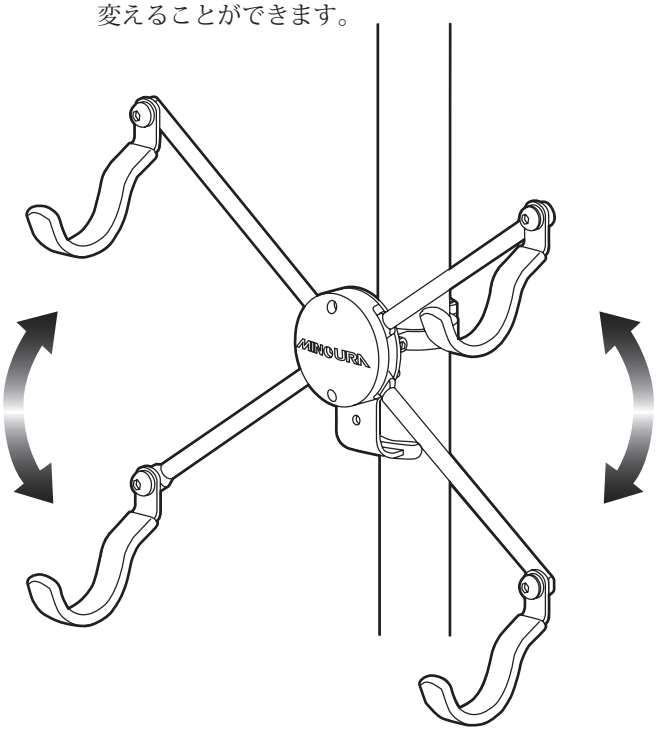
次にクレードルをクランプに取り付けます。
クレードル裏側の支持板の中心にある四角孔をクランプの長方形の突起部に差し込み、がたつきがなくなるまで押し込んでから、中心のアーム連結ボルトをいっぱいにねじ込んでクランプに固定します。

⚠ ***アーム連結ボルトがキャップ中心の孔とずれていて回しにくい場合は、アーム角度固定ボルトを2本とも軽く緩めてやるとスムースに動かせるようになります。***

⚠ ***クランプはアルミ製です。アーム連結ボルトはクランプに対して絶対に斜めにねじ込まないように注意して締め込んでいってください。***

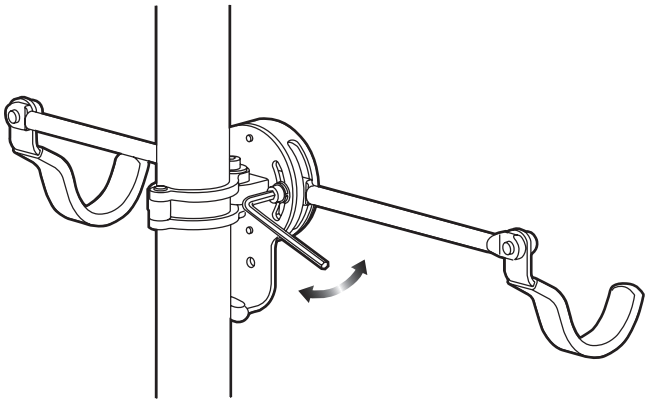
3

搭載する自転車のフレームサイズや形状に合わせて、アームは片方ずつ上下各35°の範囲内で角度を変えることができます。



アームの角度を変えるには、まず中心のアーム連結ボルトを少し緩めておいてから、それぞれのアームの背面にある固定ボルトを緩めてアームを手で動かします。

角度調整が終わったら、再び背面の固定ボルトと中心のアーム連結ボルトをしっかりと締め付けておきます。



⚠ ***アームを両方とも水平より上げた状態で自転車を搭載することはお勧めできません。荷重がより多く掛かる方が、必ず水平よりも下になるようにしてください。***

⚠ ***角度調整後にボルトをしっかりと締め付けておかないと、使用中にアームが垂れ下がってきてフック間隔が狭まり、最悪の場合フックから外れて脱落する恐れがあります。***

自転車を掛ける

バイクタワーに自転車を搭載するには、フックをフレームの下（パイプ交差部の内側が望ましい）に掛けます。
一般的にはトップチューブのみを両方のフックで掛けますが、スローピングフレームやミキストフレームではシートチューブとシートステーとの交差部に掛けて一方を位置決めしてやった方が安定します。

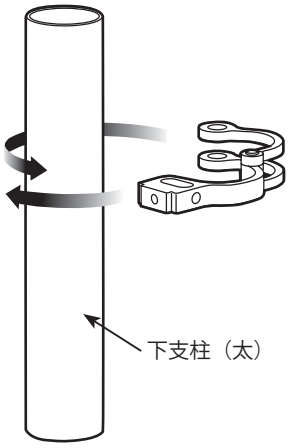
⚠ ***自転車を前上がりの姿勢にしてしまうと、前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり、周囲のものを引っかけたり、指などを挟んでしまうトラブルを起こす恐れがあります。***
この問題を防ぐためには自転車を水平よりやや前下がりの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップなどで結んで動かないようにするなどの措置が必要です。

クランプの再装着のしかた

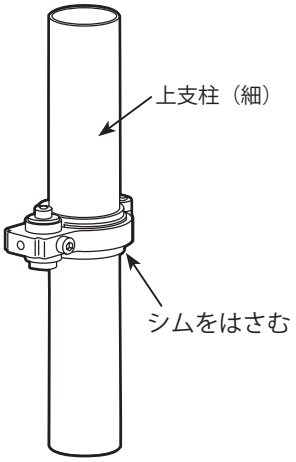
支柱にあらかじめ装着してあるクランプは基本的に外す必要はありませんが、上か下のどちらかの支柱にクレードルをまとめたり、オプションの追加などでクランプを分解して取り付けることもあります。
クランプには方向の指定がありますので、以下の説明に正しく従ってください。
向きを間違えるとしっかり固定できずに自転車がずり落ちたり、部品が破損する恐れがあります。

1

まず分解したクランプを支柱に巻き付けます。
このときクランプの１本アーム側が向かって右側に、２本アーム側が向かって左側になるようにします。

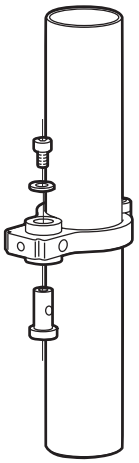


⚠ ***細い上支柱（パイプ径 40 ミリ）に取り付ける場合は、樹脂製シムをスペーサーとしてクランプの内側に巻く必要があります。***
シムの外周を見て、２本の突起溝がある方が１本アーム側になるようにします。



2

重ね合わせたクランプの***下側から***３つの孔すべてを通るようにピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。

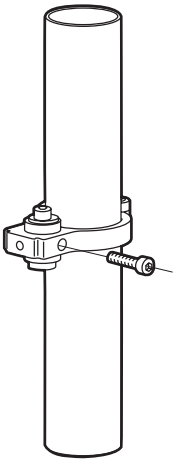


⚠ ***ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチでボルトを回せなくなります。***

ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行なえなくなってしまいます。

3

ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔と合わせます。
その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。



クランプを固定するには、まず最初にクランプ固定ボルトを、続いてピボットピン固定ボルトの順で締め込みます。

品質保証期間

本商品の品質保証期間は、お買い上げ日より **1 年間**です。
ただし自然摩耗や、弊社の事前の許可のない改造や分解に起因するものなどは対象外です。
詳しくは添付の「製品保証規定」カードを、最新情報については製造メーカーのウェブサイトをご参照ください。

お問い合わせ先

商品に関するお問い合わせは、まず最初にお買い求めになったショップにご相談ください。

＜販売元＞

株式会社 深谷産業
〒 462-0062　愛知県名古屋市北区新沼町 150
Phone: (052) 909-6201 / Fax: (052) 909-6212
www.fukaya-sangyo.co.jp

＜製造元＞

株式会社 箕浦
〒 503-2305　岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505
www.minoura.jp
[営業部]　minoura@minoura.jp
[カスタマーサービス]　infodesk@minoura.jp

日本製